

道づくりだより

第22号

2009. 12 島根県道づくり調整会議



一般国道485号郡バイパス部分開通式

CONTENTS

1. 延屋農道が全線開通しました
2. 郡バイパスの一部供用開始について
3. 奥出雲町 雪みち計画
4. 工事が進む中国横断自動車道尾道松江線
5. 江津港の臨港道路について

のぶや 延屋農道が全線開通しました

延屋農道は大田市大屋町鬼村と長久町延里を結ぶ全長約3.6kmの農道です。
平成5年から整備を進めてきましたが、今秋全ての工事が完成し11月8日に全線開通しました。

『しまねの農業農村整備すごろく』

キャラクター



ドジョウのどうじょ君

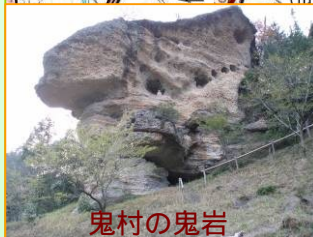
農道周辺の地域では、お米、椎茸、和牛などの地域特産品の生産が盛んですが、これらを集出荷施設へ運ぶ道路はすれ違いが出来ないほど狭く、曲がりくねっている上、大きく迂回しなければなりません。本農道の開通により、輸送時間、距離共に大幅に短縮されます。

また、鬼村地区と延里地区の交流活発化や平成19年に県天然記念物に指定された「鬼村の鬼岩」へのアクセス道路としての利用も期待されます。



県内位置図

位置図



鬼村の鬼岩



開通式の様子

開通に先立ち、地元関係者主催の開通式が行われました。

大田市長、県央県土大田事業所長などの出席のもと、テープカット、記念植樹、参加者による通り初めなどの多彩なイベントがあり、華やかな開通式となりました。



テープカット



記念植樹

樹種は多羅葉(たらよう)です



参加者による通り初め

地元関係者からいただいた手紙へのお礼

開通後、地元関係者の方から工事を担当した県央県土整備事務所大田事業所へお手紙をいただきました。お手紙から、どれほど農道の開通を待ち望み、一緒に作り、祝っていたのかが伝わってきました。

現在も整備中または計画中の農道が県内に多数あります。農業、農村を取り巻く状況は日々激変しておりますが、農業振興のため、中山間地域の発展のためそして農道を利用される皆様のために、一層頑張ってまいりたいと考えています。

お手紙と開通までにいただいた、たくさんのご協力に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

(ご本人のご了解を得て、いただいたお手紙を次頁に掲載します。)



農道が住民をつなぐ・地域を変える

大田市大屋町鬼村
鬼村下自治会長

前日までの肌寒い不順な天候と打って変わって、真っ青な青空。今日、11月8日は住民が永年待ち望んでいた延屋（のぶや）農道の全線開通の日です。朝早くから、準備作業に多くの皆さんが集まりました。

当初は、通り初めの車両をみんなで集まって歓迎をする程度でしたが、いつのまにか自治会として何かお祝いをしようということになり、歓迎の立て看板、湯茶の接待用のテントの設置、手作りの「箱寿司」や「一輪挿し」をお土産に。

そして直前になって、やっぱり紅白の幕を張ろうと手配をする人、祝砲を上げようと猿の撃退用に使っているロケット花火を取りに帰る人。どんどんエスカレートして、本番の式典以上の盛り上がりとなってしまいました。

電動車でかけつける高齢者や家族そろって参加する家もあり、農道開通にかける皆さん一人一人の思いが、ひしひしと伝わってきました。

30数年前、当時の大屋町は米や和牛、椎茸などの生産が盛んでしたが、道路網は極めてお粗末で、急な坂道や幅員の狭い、曲がりくねった迷路のような道。どこを通っても市街地に遠く、中学・高校生は約10kmの自転車通学で、道路の整備が悲願でした。

このため、かつて長久・大田方面へ最短で利用していた山道を市道延長で整備をと、機会あるごとに要望するもいい返事はなく、とうとう昭和61年に隣接の関係自治会長などの連盟で、正式の要望書として市、議会に提出しました。

しかしながら、所詮小規模な山間地でもあり、様々な理由で一向に前に進まず、あきらめかけていた中、これまでの経過を調査された島根県から農道としての可能性を示唆され、推進組織がすぐさま立ち上がりました。この時の県の積極的な動きが大きな役割を果たしていただいたと感謝しています。

そして、現地踏査が行われるという情報が入ると、有志が荒れた山道の刈り払いなどを自発的に行い協力するなど、当初から住民の意識も高かったと思います。

県営農道としての採択決定後は県のスタッフの皆さんが本場に現場に地をつけて取り組まれ、無理な地元の要望にも真摯にこたえていただきました。財政状況の悪化もあり、工事見直しや工期も長くなり、スタッフの皆さんも次々と変わられ本当に出来るのかと不安の声もあがりました。しかし本当に地域のため、受益者のためとどの担当者の方も熱心に現地に足を運ばれ、そんな姿を地元の皆さんは見たり話題にしたりしていました。

こんなこれまでの思いが、「開通式をやろう」、「感謝の気持ちを看板にしよう」などに表れたのではないのでしょうか。

既に2～3年前から高齢者の皆さんを中心に町づくりの活動の一環として、農道沿いの「花の道づくり」を目指そうと取り組んでおり、これまでにアジサイを中心に300本余りが植樹されました。水仙の球根も各戸から持ち込んで順次植えられており、更にこれから農産物の直売所を作ろうとか、もっと花を植えようなどと、鬼村地区では皆さんが「自分達の道だ」という思いがいろいろな場面で出てきており、地域活性化のきざしも見えてきました。

県道でも市道でもなく、農道だからこそより身近に誰もが受け止めており、「農道が地域を変えた。地域を変える。」との思いを改めて強く感じています。

本当に耕地事業所（現大田事務所）の皆さんありがとうございました。

事業概要

事業名：基幹農道整備事業

(旧農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業)

地区名：延屋地区、延屋2期地区

工期：平成5年度～平成21年度

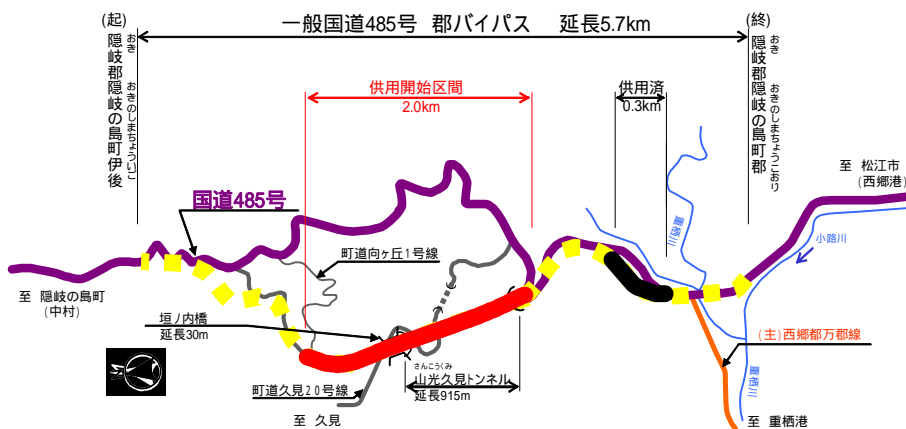
延長：3.590m

幅員：全幅員7.0m、車道幅員5.5m

こおり 郡バイパスの一部供用開始について

隠岐郡隠岐の島町地内において、一般国道485号郡バイパスの整備を進めています。本工区は、道幅が狭いうえに曲がりくねった急勾配な道路で交通の難所となっており、道路利用者にとって非常に危険な状況となっていました。

このたび、全体計画延長5.7kmのうち、新たに約2.0km区間を平成21年12月23日に供用開始しました。また、残る約3.4kmの区間についても、事業を推進してまいります。



開通前の12月22日に実施されたトンネル防災訓練の様子



【事業概要】

事業着手 平成14年度～
 延長 5.7km
 道路規格 3種3級
 設計速度 50km/h
 幅員 6.0m(10.0)m
 構造物 山光久見トンネル
 L=915m

奥出雲町 雪みち計画

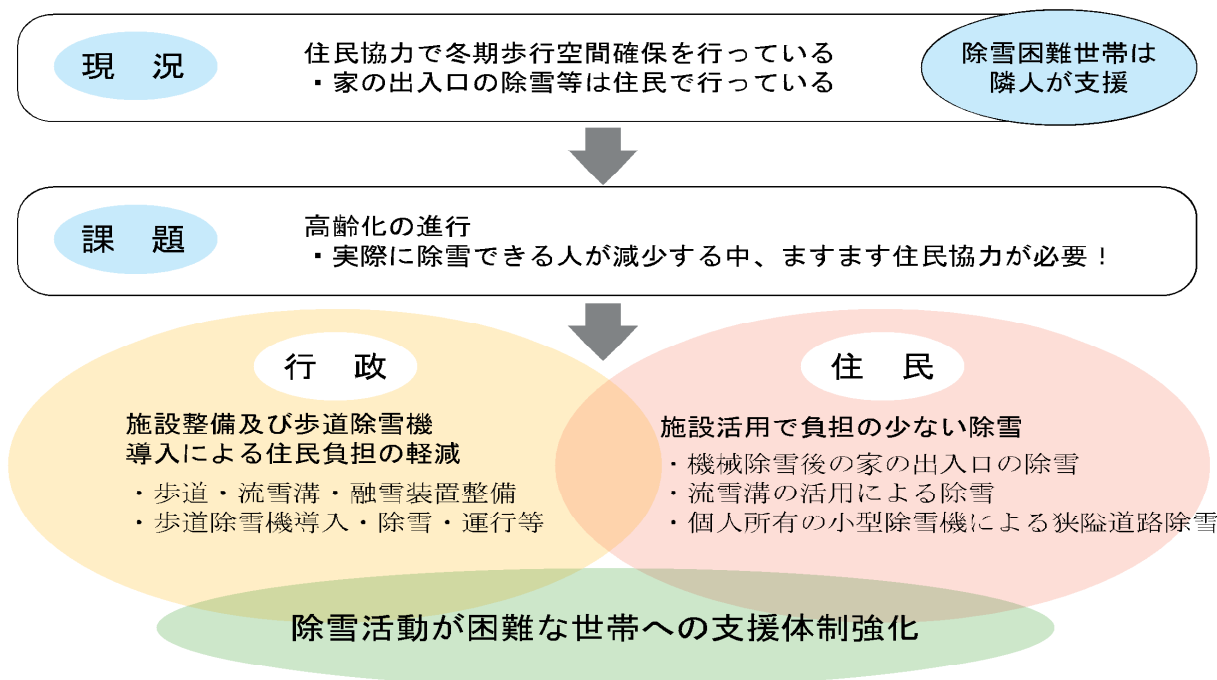
【奥出雲町雪みち計画概要】

奥出雲町は冬期における積雪が多いことから、冬期間の歩行者空間の確保が、安全な交通環境や快適な生活空間を確保するうえで、重要な施策となっています。

旧横田町では平成13年度に横田小学校を中心とした地域において、住民と行政が協働する歩道除雪計画である『雪みち計画』を策定しましたが、平成17年3月に市町村合併により、奥出雲町となったことから、今回新たに『奥出雲町雪みち計画』を策定しました。

この計画は、地域の状況に即し、かつ、より安全で快適な冬期歩行者空間確保をするために、住民と行政が協働する歩行者中心の除雪対策を構築していく計画です。

【雪みち計画の概要図】



【雪みち計画における各種取り組み】

流雪溝



融雪装置



歩道用除雪



幅広路肩



流雪溝の活用による住民協力 行政と住民の協働 1

- ・協力組織(自治会等)の結成
- ・水利組合の組織
- ・安全管理体制の整備

自治会による除雪活動 行政と住民の協働 2

- ・協力組織(自治会等)の結成
- ・公有歩道除雪機の貸与
- ・個人所有除雪機の活用
- ・堆雪場所の提供及び後処理の協力

積雪状況の情報提供 行政と住民の協働 3

- ・CATVや有線放送による雪情報の提供

その他 行政と住民の協働 4

- ・屋根の雪下ろしの一斉実施による共同作業の推進
- ・高齢者世帯、独居老人世帯等の除雪困難世帯への除雪支援

工事が進む中国横断自動車道尾道松江線

広島県側（三次河川国道事務所管内）の工事状況を紹介します。

新直轄方式で国土交通省により事業が進められている「中国横断道尾道松江線」については、三刀屋木次 IC から三次 JCT 間の平成 24 年度までの開通が示されているところです。

区間	距離	開通及び開通予定年次
松江玉造 IC～宍道 IC	14.1km	平成 13 年 3 月 24 日開通
宍道 IC～三刀屋木次 IC	12.2km	平成 15 年 3 月 16 日開通
三刀屋木次 IC～吉田掛合 IC	12.3km	平成 23 年度開通予定
吉田掛合 IC～三次 JCT	48.7km	平成 24 年度開通予定
三次 JCT～甲山 IC	20.4km	
甲山 IC～尾道 JCT	19.2km	平成 22 年度開通予定

工事は広島県側でも順調に進められており、国土交通省三次河川国道事務所管内では、平成 21 年 11 月末現在、工事着手率は三次 JCT 以北で 87%、以南で 86%となっています。



広島県側からも掘削作業が進む大万木トンネル L=4878m(庄原市内)



橋脚が立ち並ぶ下門田橋 L=530m この先が高野 IC(庄原市内)



路体面まで仕上がった上本谷トンネル L=680m の周辺(庄原市内)



整備が進む口和 IC 周辺 写真右は竹地川橋 L=297m(庄原市内)



PC 上部工事が施工中の常定橋 L=133m(庄原市内)



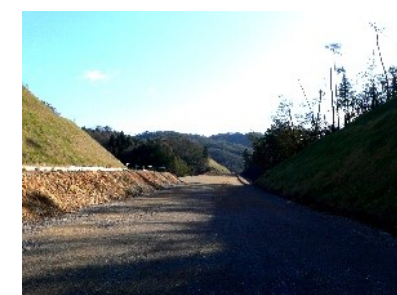
中国道の跨道橋の架設が終わった三次 JCT 周辺(三次市内)



張出架設により上部工事が進む馬洗川橋 L=696m(三次市内)



国道 184 号からのぞむ海田原橋 L=674m 手前が吉舎 IC(三次市内)



切土が完了した三玉地区の改良尾道方面をのぞむ(三次市内)

写真は H21.12.16 撮影

工事着手率は、工事発注延長ベースの着手率

未供用区間の IC、JCT および構造物名はすべて仮称

江津港（ごうつこう）の臨港道路について

〔江津港の概要〕

江津港は一級河川江の川の河口を利用してできた港湾です。本港は平坦地にある河口港なので、海運により発達する自然条件を備えており、古くから大型船が出入りし、江戸時代には北前船の寄港地として栄えました。戦後は江の川左岸側（郷田地区）で港湾整備が進み、石見臨海工業都市の物流拠点として、地域産業のパルプ工業、窯業等を支えてきました。

昭和48年度から江の川右岸（渡津地区）で新港の建設に着手し、平成6年度には - 6.5m 岸壁1バースが完成しました。また、新港と併せて整備された江津港臨海工業団地には各種企業が進出しています。



平成19年



〔江津港臨港道路について〕

江津港臨港道路は、江津港渡津地区の岸壁と臨海工業団地の連絡、および国道9号線とのアクセス道路として整備され、平成5年度に完成しました。工業製品や水産物などの運搬が主な用途ですが、周辺地区の生活道路としても利用されています。

起終点が国道9号線と接続しているため、国道9号線で事故などにより全面通行止めになった場合は、迂回路として利用されています。

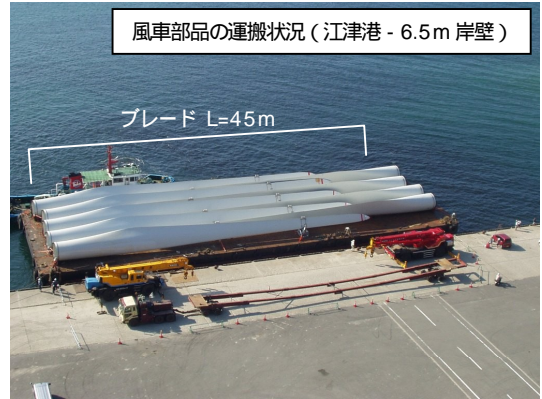
〔江津港と風力発電所〕

最近では、江津港が江津市内で建設された風力発電施設の資材運搬に利用されたことが話題となりました。

ご存じの通り、江津市内の山の上や海岸沿いには風力発電の風車が計20基建設され、国道9号線をドライブすると、巨大さに圧倒されます。それらの巨大な風車の各種部品は海外で製作され、船で浜田港を通関したのち江津港まで運搬し、-6.5m岸壁に陸揚げされました。岸壁からは臨港道路を利用して江津港臨海工業団地の敷地などに運搬・仮置きされた後、交通量の少なくなる深夜に国道9号線を経由して各地点に運搬され、組立てられました。

巨大な部品を運搬しなければならないため、江津港の-6.5m岸壁や臨港道路がなければ、江津市内の風力発電所の建設は難しかったのかもしれませんが。

臨港道路は、高速道路や国道などと比べて地味で目立ちませんが、港と直結する道路として物流の根幹を担う必要不可欠な存在であり、県民の生活や産業を陰ながら支えています。



風車部品の運搬状況（江津港 - 6.5m 岸壁）



風車部品の運搬状況（江津港臨港道路）



風車部品の運搬状況（江津港臨港道路～国道9号線）

臨港道路とは・・・

港湾施設間の連絡および港湾周辺の一般主要幹線とを結ぶ道路です。

国道、県道、市町村道は「道路法」に基づく道路です。

臨港道路は「港湾法」に基づく道路です。

道路法に基づかない道路は他にも農道や林道などがあります。